

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 **特集** 第16回生涯学習推進研究協議会
(公民館全国セミナー) 参加報告

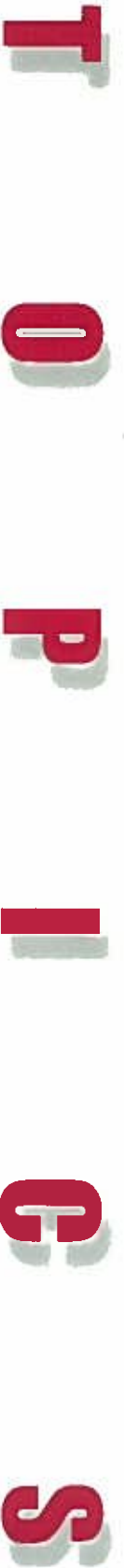
- 2 **トピックス** 平成16年度 市町村合併問題調査検討委員会活動の総括
- 3 **視点** 【絆】
- 3 **ひろば** 日本人の忘れもの
- 6 **実践記録シリーズ** 関屋モーニングサロン
- 7 **サークル交流** NPO法人ヒューマン・エイド22 (新潟市) / あるもにあ (田上町)
- 7 **素顔拝見** 木村勇樹さん (上越市) / 佐藤充春さん (佐渡市)



「白梅と刈羽貝塚」刈羽村

表紙解説 「白梅と刈羽貝塚」

古より春の訪れを知らせる白梅の丘から県指定文化財「刈羽貝塚」を望む。遥くに残雪の八石山が見える。
刈羽村教育委員会 生涯学習課 飯田彰二



平成16年度 市町村合併問題調査検討委員会活動の総括



委員長 渡邊 徳 廣

1. はじめに

新潟県は平成の大合併で、平成16年4月1日現在98あった市町村数が、平成17年5月1日では45と約2分の1に再編され、基礎的自治体の区域と規模が拡大し、行政の仕組みと中身も大きく変貌する。

今、社会教育や公民館を取り巻く全国的な状況は、職員や予算の削減、公民館のコミュニケーションセンター化、指定管理者制度の導入等による民間委託の動きが出ており、「公民館の存在意義、果たすべき役割」が大きく問われている。

当委員会は「既存公民館の存続・充実強化」を目的とし、平成15年6月に発足し、活動の中間報告として「市町村合併問題への対応」をまとめた。

平成16年度の活動は、組織内部に向けた情報の発信や研修会を中心とするとともに、第45回関東甲信越静公民館研究大会において、新潟県の合併事例・対応についてを広く情報発信した。

2. 公民館を取り巻く状況

新潟県内での公民館を取り巻く状況は、合併による急激な変革を避けるため、「当面は現行のとおりとする。合併

後、新市で調整する」等、緩やかな変革がみられるが、職員や予算が削減される事例が出ており、厳しい環境に置かれている。

県公民館連合会としては、平成16年度新たに財政基盤の確立を図るため、「自主財源確立のための調査検討委員会」を発足させ、具体策の検討活動に入り、当委員会の活動とともに組織強化に努めている。

3. 公民館があり、公民館に職員が居ることの意味

公民館は「住民の学習の保障」を土台とし、「(1)民主主義と平和主義 (2)文化の香り高い人格 (3)地域を豊かにするの3本柱のもと、「公民館」(住み良い地域をつくることを自覚する人、そういう自覚を持ちたいと努力する人)を育てる住民に最も身近な施設である。

地道な公民館活動・事業を通して多くの地域住民が集い、仲間をつくり、学び「生活上の問題や地域の課題を発見し、問題を共同で解決する」など、地域コミュニティの確立、前向きに生き自治能力の高い人材の育成、住み良い豊

かな社会づくりに大きく貢献してきた。

公民館職員は、地域住民が「住み良い豊かな地域づくり」に力を発揮できること、公民としての自覚や実践をすること」を支援することが任務であり、地域の調整役、各種情報の提供者である。

住民と職員がコミュニケーションを図り、信頼し、互いに学び歩む姿勢が大切であり、ここがコミュニティセンターとの違いであり、公民館が重んじられる所以である。

4. これからの課題、めざすべき方向

合併は、「市町村の個性を結びつけ、夢があり魅力ある地域をつくる」ための手段である。

公民館は、地方分権社会(自己決定・自己責任・自己負担・自前)の先駆者であり、実績を積み重ねてきている。これからも、公民館同士、関係機関・団体との連携を強め、公民館の機能、特色を発揮していかなければならない。

公民館職員の意識改革、資質の向上を図る

「3」の公民館設置の意義、

職員の役割及び時代の流れを十分認識する

(2) 公民館は地域住民と共に考え、学び、活動し、地域や社会に役立つ個人の満足に終わらず、地域や社会に学びや活動の成果を還元できるシステムを構築する

(3) Plan Do See Checkの実践
公民館は、自治能力の高い人を育て、地域コミュニティを確立していくところであり、事業が理念・目的にそったものとなっているかを、常に自己点検、外部評価に努める

(4) 新しい地域づくり・人づくりに向け、地域住民とともに歩む「地域学」を実践する

(5) 大学、NPO、ボランティア等各種機関・団体との連携、協力を図り、多様な学習機会と場を提供する

5. おわりに

社会教育の精神を大切に、地域住民と共に歩む公民館活動が継続されれば必ず明るい展望が開ける。

あちこちで「熱気・活気・元気のある公民館」情報が広く発信されれば、公民館は地域住民から親しまれ、頼りにされ、地域に必要な施設となる。元気な公民館でありたい。

BOOKS INFORMATION

『市町村合併問題への対応』

そのⅡ 3月末刊行!!

新潟県公民館連合会
市町村合併問題調査検討委員会

A4判 97ページ 500円(送料実費)

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共 1,800円

申込先 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

『絆』

小千谷市公民館長 廣井 一

豊饒の喜びを楽しんでいた平成16年10月23日午後5時56分、震度七という大地震が発生し、特に小千谷市は震源地に極めて近く、一瞬にして12名の尊い生命が奪われ、かけがえない緑の大地や、先人が営々と培った有形無形の財産をはじめ多くの文化施設、遺産等、想像を絶する被害を被り、まさに現在の地獄絵巻ながらの状況でした。

雪国という大きなハンデを負った復興です。二十数年振りの豪雪に見舞われ、丈余の雪の中、時折来る余震におびえながら、屋根雪処理や道路の除排雪などで身も心も不安と徒勞の冬でした。しかしながら全国からの善意を沢山いただき、総力をあげて復興に立ち上がっております。

この大震災では測り知れない損失ですが、中でも特筆すること、それは、「絆」がどれほど大切か、それをみんなでの力の実践したこと、平時では家族内でも、あるいは

地域内でも物に対する有難さが薄れ、自己主張が強かったり、お互いのあさがしや欠点などを追求したりの世状ですが、大震災を契機に、世代を超えて心が一つになったことです。私も約一〇〇人の人達と三日程避難所生活を共に暮らしましたが、普段モップなど持ったことのない子ども達が自発的に掃除をしたり、高齢者の手を引いてあげたり、車椅子を押してあげたり、時々来る余震の時みんな励まし合ったり、涙がとまらない程感激いたしました。大震災で、お互い困った時みんな助け合い、いたわりあい、励まし合う「絆」が出来たことは、平時では得ることの出来ない宝物、それが力強い復興やまちづくりになることと確信いたしました。

今後更に進む少子高齢化社会の中で、あらためて「絆」を再確認し、豊かな地域社会の柱にしたいものと思います。

H O T N E W S

掲 示 板

中魚沼郡・十日町市社会教育振興会 解散記念役員特別研修会開催

◎大会主題 「妻有の社会教育を振り返り、そしてこれからの展望する」

◎大会趣旨
平成17年4月1日に行われる市町村合併により、この地域は新しい十日町市と津南町の1市1町になることから、このたび中魚沼郡・十日町市社会教育振興会は今年度末で発展的に解散することになりました。

そこで、この地域の社会教育の振興に大きな役割を果たしてきたこの会を解散するにあたり、これまでの妻有の社会教育の歩みを振り返り、また今後の社会教育のあり方を展望するための研修会を下記により開催。

- 1 日 時 平成17年3月17日(木) 午後1時30分より
- 2 会 場 十日町情報館 視聴覚ホール
- 3 主 催 中魚沼郡・十日町市社会教育振興会
- 4 共 催 (社)新潟県社会教育協会 「十日町市・中魚沼会員の集い」
- 5 対象者 社会教育・生涯学習・公民館関係役員、新潟県社会教育協会会員 68名参加
- 6 日 程 1:00 1:30 1:40 2:40 2:50 4:20 4:30
受付 開会式 基調講演 休憩 シンポジウム 閉会式

- 7 基調講演
・演題 「妻有の社会教育が築いてきたものと今後の課題」
・講師 日本体育大学教授 上田幸夫 氏
- 8 シンポジウム登壇者 (敬称略)
「これからの地域づくりを学ぶ社会教育の展望～新十日町市の誕生にあたって～」
- コーディネーター
◎日本体育大学教授 上田幸夫
- シンポジスト
◎新潟県公民館連合会前顧問 上村捨二郎
◎中魚沼郡・十日町市社会教育振興会長 藤巻 誠
◎子育てネットワーク「ひろば」代表 小島 伸子
- ◎研修会は、盛会成功裡に終了した。

ひろば

日本人の忘れもの

湯沢町社会教育委員長 宮田 學

高度経済成長の陰で「もつたいない」と言う言葉が聞かれなくなった。

今は飽食の時代。世界中から食品を輸入し食欲を満足させている。食糧の自給率が40%と言われながらも、年間2千万トンの食品を捨てている。飽食の果てに生活習慣病患者が年々増加し、国や自治体は医療費の抑制や大量のゴミ処理に悩まされている。

家の中を見ても物に埋れた生活をしている。大量生産、大量消費、大量廃棄の経済の枠から抜け出せないでいる。このまゝ使い捨ての生活が続くと地球環境は破壊され、やがて自然から大きな「しっぺ返し」を受けることになるだろう。

昔は物が無く一つの物を最後まで大事に使った。家や道具等を使いながら磨き上げ、価値を高めて行くすばらしい暮らしの文化があった。

21世紀に向けて地球環境を守るため、去る2月地球温暖化防止の京都議定書が漸く発効した。この機会に、立ち止まって生活の中に「もつたいない」という気持ちを大事に引き継いでいきたいと思う。



協議会(公民館全国セミナー)参加報告

期日 平成17年2月23日(水)～25日(金)

公民館全国セミナーに参加して(2)

新発田市中央公民館
主事 宮村 磨衣



分科会・全体会

2日目の午後からは4つの分科会に分かれ、各参加者からの実践発表をもとに話し合いが行われました。その後、全体会で各分科会のコーディネーターが分科会で話し合われたことの報告と全体の討議をしました。

ここでは、私が参加した「地域で育てる子どもたち」をテーマとした分科会でのまとめを報告します。

○昨今、子どもをめぐる悲惨な事件が相次いでいる。心配する保護者が学校からの帰り道は寄り道しないことを言い聞かせるなどし、生活・体験の幅が狭まっている傾向がある。公民館は安心した地域を作る必要がある。

○子どもたちにメディアや市場など、産業社会からの圧力がかかり、家庭・学校・地域の教育力が十分に発揮できない状況にある。子どもを導けるのは大人であり、その大人は常に学ぶことを忘れず教育力を養わなければならない。公民館はその学びの支援をする役割がある。

全体討議

3日目の全体討議では、国立教育政策研究所の笹井宏益氏がコーディネーターとなり、参加者全員がフリーでディスカッションを行いました。その中で「市町村合併や指定者管理制度などが話題にされることが多いが、もっと根本的なこと＝自分が地域の中で何をしたいのか、地域をどう変えていきたいのかを考えることを忘れてはならない」という意見がありました。普段の業務の中で、自分の担当する事業をどうするかということにとらわれていた私にとって、

この意見は原点を振り返るきっかけを与えてくれました。

また、地域住民の生活を豊かにするためには、住民1人ひとりが行政任せという意識を変えていかなければならない、ということも話し合われました。「人に要求するだけでなく、自分がまず何ができるのか」、「人を変えるにはまず自分が変わらなければならない」、これは公民館職員対地域住民という関係に限ったことではなく、私たちが人としてとても重要な気持ちだと感じました。1人の人間として住民と向き合い、地道な積み重ねを経て信頼関係を築くことで、少しずつ確かな成果がみられるのではないかと思います。



感想

今回の研修では地域の特性を活かした社会教育活動を行っている全国各地の方々と交流するという、大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。「人を変えるにはまず自分が変わらなければならない」など公民館職員として、また1人の人間として大切なことを数多く教わりました。地域住民の1人である公民館職員の私も、今回の研修の成果を地域に還元できるよう、さらなる努力をしていきたいと思えます。

特集

第16回生涯学習推進研究

会場 東京 (独)国立オリンピック記念青少年総合センター

公民館全国セミナーに参加して(1)

加茂市公民館

主事 小柳 豪志



北は北海道から南は沖縄県まで、全国から60名余りの公民館関係者が一堂に会する、大変盛大で内容の充実したセミナーでした。

講演 I

初日に「生涯学習時代における社会教育の新たな動向」をテーマに、文部科学省の竹下社会教育課長より、公民館における“家庭教育支援”“子どもの育成を核とした地域づくり”及び“指定管理者制度”を中心に講演をいただきました。

○「自然体験、社会体験の重要性」のデータを見ながら、大人の関わり方の必要性や、これまでの社→学から学→社の体制変更が必要であり、公民館にはその支援としての取組み、事業展開をお願いしたい。

○文部科学省では【地域教育力再生プラン】事業を展開している。地域住民の協力やボランティア活動による青少年育成、異世代交流を図るなどをしていく中で、子どものためのプラン→大人のプラン（大人の居場所づくり）と結びつくことを期待する。

○指定管理者制度は、必ず取り入れるものではなく、選択肢として活用してもらいたい。

□「生涯学習は、住民が主役であり参画することが重要である。公民館（行政）は黒子的役割として支援し、人間力の向上、地域の教育力・文化力・福祉力の向上に結びつけてもらいたい」

シンポジウム

講演 I に続き「時代に応える公民館をめざして」をテーマに、国立教育政策研究所の笹井氏がコーディネーターとなり、3つの公民館とNPO団体

の事業事例を中心としたシンポジウムが行われました。各公民館、団体の地域住民のニーズに応えた素晴らしい取組みに感心することばかりでしたが、発表の中で「いつも地域を見渡し、微妙な変化をすぐに感じられるような地域の消防団のような存在でありたい」という言葉がとても印象に残りました。

まとめとして「地域社会におけるパイプライン（つなぎ）としての役割」「住民と最前線で接している職員の必要性」などこれからの公民館に求められているものについてお話をいただきました。

講演 II

2日目の午前は「いい人間関係づくりのために」をテーマに、NPO法人日本ケア・カウンセリング協会の品川氏より、相手（来館者など）との接し方（聞き方・話し方）やカウンセリングの基礎についてのお話と、グループに分かれての「肯定メッセージ法」体験をご指導いただきました。

また、「公民館は建物（ハード）ではなく、ソフトである」「カウンセリングは優しさである」とお話しいただき、住民の皆さんと接する態度について改めて考えることができました。



ふりかえり

参加者の公民館への情熱・意欲を感じる3日間でした。このセミナーを通して、感じたことを忘れずに、今後も公民館に携わる者としてぜひ、生かしていきたいと思えます。参加させていただき、ありがとうございました。感謝いたします。

セミナー後半の報告について、宮村さんにバトタッチします。

実践記録 シリーズ 85

お茶を飲みながらリラックス・・・「大人の講座」

関屋モーニングサロン

関屋地区の有志が企画・運営、公民館が主催する初めての試みです。

新潟市関屋地区公民館運営審議会議長 宮崎 譲次



◇はじめに

関屋地区の有志が企画運営、公民館が主催する初めての試み。新潟市は平成19年4月に政令指定都市となり、行政面も大きく変革することになります。公民館組織についても、地区公民館運営審議会は廃止となり、その代りに公民館協力員制度（仮称）を設置する動きになっております。これらの動向に対応すべく私共運審委員と公民館と合議を重ねた結果、地域の有志を募り、運審委員と共に、自主企画、運営で事業を行うボランティア組織をつくることとなり、企画委員会を編成することを決めました。

◇事業展開

当面、企画委員会は、運審委員4名と関屋地区の有志5名（内女性2名）9名のスタッフとアドバイザーに、館長を迎えてスタートしました。

○講座内容の編成と講師交渉

各委員は一住民として、自分の考えを中心に地域の身近な問題や、今、世の中で問題になっているさまざまな事象等、分野を問わずにテーマを提案し、委員会で合議して決めてゆく。各委員のテーマが決まると、自分のテーマについてそれぞれ、講師の選定と交渉に入る。人選については、館長のアドバイスを参考に、公民館職員と共に講師と交渉に入り選定する。また、自分のテーマ講座日は、本人が講師紹介、司会進行を務めることになる。

○講座開催時期、日時

講座開始は9月とし、月1回、第4金曜日、午前10時から12時、会場は大ホールを使用し、受講希望者全員収容出来る体制をとる。シリーズは7回とし、3月までとする。朝の爽やかな気分で学習に入り、講座は前半50分、20分のティータイムをとり、後半50分の時間割で講師にはお願いする。ティータイム



※日程・講座内容

No	月日	テーマ(内容)	講師
1	9/24 (金)	お茶の効用と美味しい淹れ方	浅川園林社長 古館 邦彦
2	10/29 (金)	ギリシャ文明が世界に及ぼす影響	獨協大学講師 桜井 悠美
3	11/26 (金)	天然ガスからの国づくり	元新潟県天然ガス協会理事 安国 昇
4	12/24 (金)	浜崎あゆみ・鬼塚ちひろにみる青少年のころ ～「ひきこもり」系と「自分探し」系～	新潟経営大学助教授 中島 純
5	1/28 (金)	楽しく旅行をするための心得17箇条 ～添乗員こぼれ話～	ツアーコンダクター(経歴19年) 松原 誠
6	2/25 (金)	集団災害時の救急医療 ～新潟地震、阪神淡路大震災など～	新潟県消防団副団長 本多 拓
7	3/25 (金)	おいしく元気にハーブティ	アロマセラピスト 榎舎 道子

は、所用の他にお茶と茶菓を自分の席でゆっくりと味わってもらい、同時に同席の人との歓談交流の一時でもあります。リラックスしたところで後半の学習に入ってもらいます。以上のような和やかな雰囲気の中で学習を、と考えタイトルも「関屋モーニングサロン」としました。講座のタイトルも、何が得られるか一目で分かるようなネーミングを付けるよう心掛けました。

○会場設営

9名の委員全員フル稼働。

受付3名（出欠表、会計、レジュメ、アンケート用紙配布、茶菓渡し）。ティータイム係3名（緑茶、紅茶、コーヒー等準備）。会場作り2名、講師応接に館長と司会進行担当者。

○広報手配

今回は市報、自治振興会々長の協力を得て、自治会、町内会回覧板、関屋地区内のスーパー店内にポスター表示を依頼する。

◇今後の課題

スタッフの強化、少なくとも15～20名位にし、特に女性スタッフの参加が欲しい。女性の視点を生かしてゆきたい。また講師陣の人選が大変で、出来るだけ地域に住んでいる人的資源を発掘し、地域と一体感のある講座を開催してゆきたい。また毎回アンケートを採っておりますので、その分析結果を生かし、地域住民のニーズに答えてゆきたいと思っております。

市民活動からNPO法人へ

NPO法人ヒューマン・エイド22

最初は地域子育て情報誌作りから始まり、その後は自分たちが育児の中で欲しかったことを約10人の仲間と企画運営してきました。例えば、講演会・講習会の開催、ラジオ番組の制作、資格のあるメンバーで開催する0歳児・1歳児・3歳児教室などです。

6年間公民館のお世話になり、その後NPO法人の認証を受け、現在「にいつ子育て支援センター育ちの森」の管



理運営の委託をうけ、仕事として働いています。市民団体時代のノウハウを生かしつつ、四苦八苦する中にも、元気な子どもたちや、一生懸命子育てしている家族の方々からたくさん学びを得て、充実した毎日をごさせていただいています。

新潟市新津
NPO法人ヒューマン・エイド22
副代表 眞島貴代子 記



コーラスの楽しさに触れて

あるもにあ

「あるもにあ」は、平成九年、田上町公民館を練習の場として誕生したコーラスグループです。イタリア語で、和、なごやかという意味の単語から名づけました。その名のよう



に、美しいハーモニーと響きをめざして、町在住の桑原純子先生の指導の下、気持ちを一つにして歌っています。先生の指導は、ユーモアにあふれ、公民館の講堂いっぱいには笑い声と歌声が響き渡ります。

毎年、田上町の文化祭やかあさん音楽会に参加して、ステージで歌う楽しさと喜び緊張感を満喫しています。日常の生活を離れ、年齢も忘れ歌の世界に浸っています。

コーラスを通しての人との出会いを大切にして、これからも続けたいと思っています。

田上町・同合唱団
渡辺 悦子 記

今年1月の上越市との合併に伴い、名立町役場総務課の広報担当から、教育委員会名立区分室教育・文化グループ係員として異動、併せて公民館業務を担当することになりました。

弱冠24歳であります。広報マンとして、町内で行われる行事の取材に飛び廻り、休みもない仕事ぶりでした。(イベントは休日に多い。)

今度の異動では、その休日に行われるイベントの主催担当として、またも休日のない日々で公民館事業を進めております。

上越市立名立地区公民館

係員 木村勇樹さん



なお、そんな中でも、卓球などスポーツ大好き人間で、特にスノーボードに熱中しており、夏のうちから雪の降るのが待ち遠しく、夏でも室内ゲレンデに行くほどです。

本人の申告では、相当の技術レベルで、スキー場のジャンプ台では一番光っていたそうです。

ちなみに、今年はシーズン突入直後に早速靱帯を痛め、前半を棒にふっていますことを補足します。(上越市立名立地区公民館長 笹川光明 記)

わが畑野地区公民館の若手のホープ、いや佐渡市公民館の期待のホープ、佐藤充春君を紹介します。

彼は職員となって以来、公民館一筋4年。今や当畑野事務所生涯学習(公民館事業)にかけては一番の古株、なくてはならない存在となっています。周囲の公民館役員や地区住民の間では超人気者。その人気の秘密はと言うと、1に誠実、2に誠実、3・4がなくて



佐渡市教育委員会畑野事務所
公民館主事 佐藤充春さん

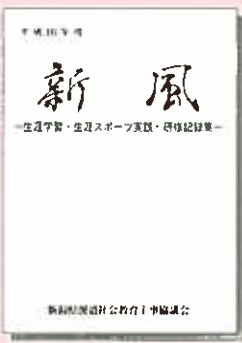
5に美男子?ということ。特に年上の女性にモテモテです。この点、本人はどう思っているのでしょうか。仕事もバリバリで、私も横で安心して見ていられる存在です。今後も地区公民館事業の発展のため、がんばってほしいと思います。

(佐渡市教育委員会畑野事務所 斎藤辰弥 記)

素顔拝見

昭和四十九年度発足した派遣社会教育主事制度、三十一年の節目を迎えた平成十六年度から、県の財政事情により派遣中止という事態に陥った。

このような厳しい状況の中にあつて、平成十四、十五年度派遣の二十七名の会員の皆さん方が、業務多忙も顧みず日頃の事業実践と研修成果を満載した「新風」を刊行されたことに深



く敬意を表したい。

平成十三年からは広域市町村派遣が実施され、この冊子の中でも、青少年活動の支援体制づく

くり、家庭教育の充実を図る体制づくり、子ども体験活動支援づくり、総合型地域スポーツクラブ設立の体制づくり等に対応したすばらしいレポートが掲載され、説得力のある集録となつている。

当月報実践シリーズ欄でも、派遣社教主事の皆さん方から数々の実践事例を登載していただいている。

恵贈資料紹介

平成十六年度 新風

新潟県派遣社会教育主事協議会

Network ネットワーク

平成17年度 中越地区公民館特別研修会 第1次案内

- 趣旨**
平成16年度は、未曾有の自然災害に見舞われ、中越地区の公民館はかつて経験したことのない試練にたたさされている。また、合併が進み地域のコミュニティもより一層求められる時代に突入した。
このような中で、中越地区並びに県内の公民館関係者が一堂に会し、地域コミュニティの活性化の中核となる公民館について考える機会とするとともに、災害時の公民館の様子を知り、今後の公民館のあり方の一助としたい。
- 主催** 地域コミュニティの再生・活性化と公民館活動
- 共催** 中越地区公民館連絡協議会
- 主期** 新潟県公民館連合会
- 期会** 中越地区公民館連絡協議会主事部会・同事務局
- 日場** 平成17年6月3日(金)
- 会場** 長岡リリックホール
長岡市寺島315番地 TEL 0258-29-7711
- 日程**
 - 受付 12:30~13:00
 - 開会式 13:00~13:15
 主催者挨拶 中越地区公民館連絡協議会会長
 来賓挨拶 中越教育事務所社会教育課課長
 新潟県公民館連合会会長
 - 講演 13:15~15:00
 演題 「地域コミュニティの再生・活性化と公民館活動」(仮称)
 講師 防災・危機管理アドバイザー
 防災システム研究所 所長 山村武彦 様
 - 実践発表 15:00~16:00
 発表内容：「災害時における公民館の現状」
 (1) 三条市中央公民館(水害)
 (2) 長岡市中央公民館(震災)
 (3) 小千谷市公民館(震災)
 (4) 川口町公民館(震災)
 - 閉会式 16:00~16:10
- 参加費** 無料
- 参加申し込み** 長岡市中央公民館
〒940-0072 長岡市柳原町2番地1
TEL 0258-32-5110 FAX 0258-32-0561
平成17年5月24日(火)までに

event information

平成17年5月の
催物ご案内

大型連休イベント

(4月29日(金・祝)~5月8日(日)、ただし、5/2(月)は休館)

しゃぼん玉と遊びましょー (1日4回、5月6日のみ3回実施)

内容：こどもが中に入れる巨大しゃぼん玉を作ったり、しゃぼん玉でコブラを作ったりといろいろなしゃぼん玉づくりの実演をとおして、しゃぼん玉の不思議な世界を楽しく紹介します。

- 巨大なしゃぼん玉を作ろう
- しゃぼん玉のコブラ
- しゃぼん玉に入ろう
- しゃぼん玉はなぜ丸いかなどなど、お楽しみ!!

☆プラネタリウム春番組★ 3月5日(土)~6月12日(日)

「翔ける! 日本から星の世界へ」

(内容) アニメによる物語の中で、日本の本格的宇宙開発時代の到来を告げるプロジェクトをいくつか紹介します。例えば、今年の夏頃、小惑星に接近して地表のサンプルを採取予定の「はやぶさ」、日本を含めて多くの国々が協力して建設している国際宇宙ステーションなど、日本の宇宙開発をテーマにわかりやすく紹介します。もちろん、うしあき座、おとめ座、しし座、春の大三角など春の星座や美しい星空も紹介します。

あ と が き

市町村合併問題も、いよいよ最終段階に入つて参りました。

三月二十六日、千葉県公連の関係者三名の方が、新潟県内の市町村合併問題の状況視察のた

め来県されました。

合併に関連しての人事異動も、大変大幅な異動となつております。年度始め、あわただしい毎日かと存じますが、一日も早く平常の業務に復されんことを祈念しております。

(鈴木 記)